

(国語)

「自ら考え、伝え合う子どもを育てる国語科の指導」
—主体的に考え、対話を通して互いに高め合う指導の工夫—

大阪市立川辺小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校では、令和2年度から、「自ら考え、伝え合う子どもを育てる国語科の指導」を研究主題に、3年間研究を進めてきた。3年間で、国語科の授業展開について学んだり、学年に応じた話し合い活動を取り入れたりして、意見の深まりや広がりがみられ、国語科で培ってきた力が他教科でも活用できるようになってきた。そして、令和4年度は、主体的に考えるための方法として、「音読」→「視写」→「話し合い」→「振り返り」の流れで授業を組み立てるように取り組んだ。「視写」を取り入れることで、一人学びの時間を確保し、どの児童も本時にかかわる教材文を静かに読む時間となり、「自ら考える」児童の姿が見られた。そこで、今年度も引き続き「視写」を取り入れた授業づくりに取り組むこととする。また、今日的課題である評価の仕方にも目を向け、だれもが公平な評価を行うために、今年度は「振り返り」に重点を置き、研究を進めた。

2. 研究の趣旨

本校が5年前に実施した児童アンケートの結果から、本校の児童は、自分の意見を書いたり言ったりするなどの力が弱く、発表者が固定化されるなど、自分の意見に自信がない児童が多くいることが分かった。そこで、どの教科にも通じる、国語科の力をつけようと考えた。また、令和4年度には、教諭が半数以上入れ替わったので、授業の基礎基本についても、全教諭で共通理解を図り、粘り強く国語の授業に取り組んでいく取り組みを進めることになった。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

方策①振り返りの書き方、書かせ方とそれを用いた評価

- ・振り返りを書かせるときの掲示物や発問を工夫する。
- ・振り返りを次時や次単元に活かすための工夫を考えて取り組む
- ・振り返りを評価に活かすための工夫を考えて取り組む。

方策②伝え合う力を高める工夫

- ・説明文教材における視写を取り入れた授業の在り方を学ぶ。
- ・一人学びを通して、自分の意見や考えを持てるよう発問を工夫する。
- ・伝え合う場面でより考えが深まる発問を工夫する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 児童自身が自分の成長を感じており、児童アンケートでは、「自分の考えを書いたり言ったりすることができる」に対して、「できる、だいたいできる」と答えた児童が、79.9%となった。
- 国語科の授業を「音読→視写→話し合い→振り返り」の学習過程に統一し、どの教諭も同じ授業を実施できるようになってきた。そのため、児童は、安心して授業に取り組めるようになった。
- 視写を取り入れることで、「書く力」だけでなく、「読む力・話す力」など、国語科全般の力が児童についた。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について、全教諭で議論し、説明文教材についての評価ルーブリック作成することができた。

(2) 今後の課題

- 今年度は説明文教材での研究となったので、物語文教材でも視写や振り返りにつて、研究を深める必要がある。
- 研究主題である、「伝え合う児童の育成」までは至っていないので、伝え合う児童の育成に取り組む必要がある。
- 国語科以外の指導力向上に取り組む必要がある。